

今週（10月23日から10月27日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

無担保コールO/N物は、前週に引き続き資金調達ニーズが非常に強い展開となり、週初は▲0.01%近辺での出合いが中心となった。週中頃から一部の大手行が調達を見合わせたことで、レートはやや低下したものの、27日(金)には週末要因も重なった事で旺盛な資金調達ニーズが見られ、レートは反転し上昇となった。

ターム物は、週前半はショートターム物を中心に▲0.01%近辺の出合いが見られたものの、オファーサイドの運用ニーズは限定的であったため、レートが低下した週後半は閑散となった。

日銀当座預金残高は、548兆円台からスタートし、24日(火)の国債買入オペや25日(水)の共通担保資金供給オペ(2W物と5Y物)などにより551兆円台まで増加し、その後は概ね横這い圏での推移となった。

また金融調節では、事前予定通り24日(火)に、7本目となる貸付期間5年(2023年10月25日～2028年10月25日)の共通担保資金供給オペ(全店・金利入札方式)が10,000億円でオファーされた。結果は、応札額35,130億円、落札額10,003億円、按分レート0.320%、平均落札レート0.338%、按分比率27.9%となった。

●レポ市場

今週のGC T/N物は、概ね▲0.13～▲0.09%程度の水準で推移した。

SC個別銘柄では、2Y440～453回、5Y150～162回、10Y355～372回、20Y175～186回、30Y65～80回、40Y10～16回など、カレント近辺の銘柄にビッドの出入りが多く見られた。

●短国市場

今週の短国市場は、全ゾーンが概ね横ばい圏で推移した。

24日に実施された短国買入オペは、前回と同額の1,000億円でオファーされ、弱い結果となった。

27日に実施された3M物入札はやや強めの結果となり、結果発表後のセカンダリーマーケットでは堅調に推移した。

●CP市場

今週のCP発行市場は、月末に向けて幅広い業態で大型発行が見られた。

市場発行残高は、引き続き高水準であり、26兆円台前半で推移している。

発行レートについては、日銀適格担保銘柄では概ね0%前後での出合いが中心であった。一方でロングターム物の案件では、日銀による政策変更の警戒感からかレート水準にばらつきが見られた。

26日にはCP等買入オペが事前予定通り4,000億円でオファーされた。結果は、按分レート0.000%、平均落札レート+0.023%と、前回比（按分0.000%・平均+0.011%）で按分は横這い、平均は上昇した。

●短期金融市場関連指標

	日経平均 (円)	新発10年物 国債利回り (%)	為替 (ドル/円中心相場)	無担保コールO/N (加重平均・%)	東京レポレート(翌日物・ T+1スタート・%)	日銀当座預金残高 (億円)
10/23 (月)	30,999.55	0.860	149.93	△ 0.012	△ 0.100	5,481,300
10/24 (火)	31,062.35	0.840	149.75	△ 0.014	△ 0.099	5,498,300
10/25 (水)	31,269.92	0.850	149.92	△ 0.018	△ 0.101	5,516,400
10/26 (木)	30,601.78	0.880	150.17	△ 0.019	△ 0.119	5,512,600
10/27 (金)	30,991.69	0.870	150.18	△ 0.013	△ 0.120	5,504,000

## 来週（10月30日から11月2日）の短期金融市場動向

### ●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
10/30 (月)	日銀金融政策決定会合(1日目 14:00～) 月例経済報告 (内閣府)	2Y 29,000億円 11/1発行			
10/31 (火)	日銀金融政策決定会合(2日目 9:00～) 日銀総裁定例会見(15:30) 経済・物価情勢の展望 9月の労働力調査(完全失業率 総務省 8:30) 9月の一般職業紹介状況(有効求人倍率 厚生労働省 8:30) 9月の鉱工業生産・出荷・在庫速報(経済産業省 8:50) 9月の商業動態統計速報(経済産業省 8:50) 9月の住宅着工統計(国土交通省 14:00) 10月の消費動向調査(内閣府 14:00)				米FOMC(1日目) 8月のS&P/ケース・シラー住宅価格指数 10月のシカゴPM景況感指数 10月の米CB消費者信頼感指数 7-9月期のユーロ圏GDP1次速報 10月のユーロ圏消費者物価指数速報値
11/1 (水)					米FOMC(2日目) 10月のISM製造業景況指数 9月の米建設支出
11/2 (木)	10月のマネタリーベース(日銀 8:50) 財政資金対民間収支前月実績/当月見込み(財務省 15:00)	TB3M 56,000億円 11/6発行	10Y 27,000億円 11/6発行		英中銀MPC 9月の米製造業新規受注・出荷・在庫
11/3 (金)	文化の日				10月の米雇用統計 10月のISM非製造業景況指数

### ●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
10/30 (月)	200	10,800	11,000	国債買入 国債補完 CP買入		14,800	59,800	70,800	TB3M発行▲56,000 償還58,000
10/31 (火)	▲1,000	1,800	800	CP買入	45,400 ▲400	4,000	4,000	4,800	
11/1 (水)	▲300	▲24,000	▲24,300				0	▲24,300	2Y発行▲29,000償還9,400
11/2 (木)	▲500	▲7,000	▲7,500				0	▲7,500	消費税・法人税揚げ、年金・労働保険料揚げ 普通交付税 交付税借入▲13,000償還13,000
11/3 (金)	文化の日								
週間合計	▲1,600	▲18,400	▲20,000	—	45,000	18,800	63,800	43,800	

10/30は日銀予想、10/31以降は当社予想

### ●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、大手行の動向にも大きく左右されるものの、依然として調達サイドのニーズは旺盛であるため、レートは高水準での推移が予想される。債券レポ GC T/N物は、参加者のスタンスに大きな変化がなければ、レートは引き続き横ばい圏での推移が予想される。短国市場は、11月2日に3M物の入札実施が予定されている。また、10月31日に実施が予想される短国買入オペは、1,000億円程度が見込まれる。CP市場は、月初発行にあたり、発行案件がどの程度膨らむかが注目される。

主要なイベントは、国内では30日から31日に日銀金融政策決定会合、31日に経済・物価情勢の展望、9月の完全失業率、有効求人倍率、海外では、31日に7-9月期のユーロ圏GDP1次速報、10月のユーロ圏消費者物価指数速報値、31日から11月1日に米FOMC、2日に英中銀MPC、3日に10月の米雇用統計、10月のISM非製造業景況指数などの発表が予定されている。

◆本資料は信頼できると思われる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。  
◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。  
◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目録見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長（登金）第526号 日本証券業協会加入